科学研究費助成事業（基盤研究（Ｓ））研究進捗評価

課題番号	25220202	研究期間	平成２５年度～平成２９年度
研究課題名	減災の決め手となる行動防災学の構築	研究代表者 （所属・職） （平成 30 年 3 月現在）	林　春男（京都大学・防災研究所・研究員）

【平成２８年度　研究進捗評価結果】

評価		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	A－	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、災害場面における人間の行動を、個人の意思決定のメカニズムまで踏み込んで解明し、個人、組織を含む地域の防災力を向上させる仕組みを構築しようとする、他に類を見ないユニークなものである。設定した５つの課題に基づく目標に向けて、概ね順調な研究の進展が見られるが、研究実績報告書や研究進捗状況報告書の記述の不明確さもあって、複雑で多岐にわたる災害の被害予測システムや、マルチハザード外力の総合的な設定、防災知を統合して人間行動と結びつける仕組みの構築など、具体的な形が明らかになるまでには至っていないと判断せざるを得ない。

活発に行われている成果の社会的普及・広報活動に加え、本研究を世界レベルの研究にするためにも、個別の分担研究を「行動防災学」に集約させる形で科学的な体系化を図るとともに、研究成果の学術的・国際的な公表にも更に力を入れることが望まれる。

【平成３０年度　検証結果】

検証結果	
B	当初の目標に対し、十分ではなかったが一応の成果があった。 本研究は、設定された個別の研究課題に対して、東日本大震災のデータやその後の災害での調査・分析により、心理学的に重要な知見を実証的に見いだす等、それぞれに成果を上げている。 しかし、個人の意思決定メカニズムの解明、それに基づく従来の防災・減災行動の課題の分析や改善方法の検討が十分には行われておらず、また、個別の研究課題間の連携が限られており、「行動防災学」の体系化まで距離を残した。